

ナイルの流れに

カイロ日本人学校 Noboru Ozawa



H.27.8.6

No.17

ドイツ・オーストリア旅行⑥ ～ウィーン～

旅の終わりは**ウィーン**です。ミュンヘンから、オーストリアの長距離列車 RAILJET で移動しました。約4時間の鉄道の旅です。

ウィーンは、実は私が中学生の時からいつか行ってみたいと思っていた町でした。中でもウィーンの**シュテファン大聖堂**を観たかったのです。シュテファン大聖堂は、12世紀に建造し始め300年の年月をかけて完成し、**屋根のモザイク模様**が特徴です。長年の夢がかない、北塔からの眺めは言葉では言い表せない感慨深いものでした。



シュテファン大聖堂（北塔から）

ウィーンの町は、静かで建物が美しく、とても上品な町に感じました。**ハプスブルク家の高貴な香り**が、現代にまで漂っているように思いました。特に**シェンブルン宮殿**は別世界で、そこだけ別の時間が流れているようでした。**マリー・アントワネット**が幼い頃に過ごした部屋や、**モーツァルト**が演奏した部屋があったりし、今自分がそこにいると思うと、現実とも虚構ともとれる何とも言えない不思議な感覚がしてきました。広大な**庭園**や**ネプチューンの泉**、戦没者を慰霊するために築かれた**グロリエッテ**など、歴史の重みを感じながら、ただただ見とれていました。

私は日本人ですので、日本人の物差しで物事を見てしまいます。つまり価値基準が日本にあり、その基準に照らしてその国の価値を判断します。また、現在私はエジプトのカイロに住んでいます。そうするとエジプトの物差しも、まだ少しですが、持ち合わせています。エジプトの物差しでも、その国の価値を判断していることに気付きました。このような物差しをたくさん持つことが、世界の多様性を理解することになると思いました。世界は広いです。若いうちに、世界のいろんな国をみてください。



シェンブルン宮殿の庭園